

るものゝみを数種とり出しておつたのである。六月にもなると自由畫も數多く畫ける様になり、鉄仕事や粘土製作にもおひ／＼に興味をもつて来て、幼兒自身でも自由材料としている／＼のものを畫いたり作つたりする様になる。とり擧げた材料以外にしばしば自由材料で數多く畫かせ、數多く鉄仕事もさせ、粘土製作も度々くりかへすとよい。

こゝに又くりかへしておくが幼稚園の手法は一つの仕事に熟練するといふ事よりもいろ／＼のものを作ることを主眼として、幼兒たちを導かなくてはならない。物をつくる興味を覺えさせる事が第一肝要なことである。

## 誘導保育

### おもちゃ屋

### 菊池ふじの

入園當時のごく簡単な製作として、輪つなぎ、首飾り、こま等を作るのであるが、これ等の製作品を持たせて歸すのは入園したての頃だけであつて、後々まで出来る毎にばら／＼に持たせ歸すのは何となしに教育良心が告めて苦しいのである。そこでこの簡単なそして澤山な製作に目的性を與へる爲に、おもちゃ屋とする事が一番適當である。入園當時は何もかも夢中であらうから、最初は作つたらみんなのを纏めて飾つておき、少々落ちつきの出来た五月の末頃にみんなにこの目的を話して會得させるのである。取りかゝるのは入園最初からであるが、つまり目的を持つのは丁

度保育案掲載の五月の末頃が適當であらう。

計畫 今までに出来上つてゐる三、四種のおもちゃを飾るべきお店をつくる。それには、真中をあげて兩側に机を並べ、この机に奥の方が高く店先の方を低くといふ工合に傾斜をつけるとお店らしい感じが出る。この机に、出来上つた品物をお店らしく並べる。製作するおもちゃの種類はいろ／＼と澤山あるであらうけれど、この時代に、繼續時間の餘り長いのはだれ氣を持つ様になるからいけない。先生としては、あれも作らせ度い、これもこの中に加へ度いと思ふものが澤山あるが、この度のおもちゃ屋には、手技の方にくわしく述べられてある輪つなぎ、こま、首がざり、風車、軍艦、てんとう蟲、でん／＼蟲位の種類にして、目的を持つてから二週間位の中に、活潑に、まつさとやつてしまつた方がいい。賣買遊びもごく簡単に、數の計算といふことを考へずに、丸いお金一つ渡せば一品を買つてくれるといふ工合にする。折紙で財布を折らせて、これに各自作つたお金を入れさせておくこと喜ぶものである。

期待効果 入園當時のごく簡単な製作に目的を與へるといふことが第一の期待効果であつて、そして又この案の動機であると言つてもよい。手技としての効果は言はずもがな。社會生活の興味、陳列することによつてものゝ整理の觀念が微かながら養はれるであらうし、おもちゃ個々のものゝ觀察或はお店の觀察も微々たるものではあらうが助けられるであらう。

繼續時間 前述のやうに二週間位。

田植 かはずの鳴く五月頃の苗代。そこには三、四寸位に伸びた稲の苗が密生してゐる。そしてこの苗代の中央にはランプが立てゝある。ランプは石油を盛つた盥の中に立てられてゐるのである。夕方からこのランプには灯がともされる。すると蛾(ず)る蟲の成蟲は灯に集つて来てこの盥の石油の中に落ちてやがて死ぬ。これは稲の害蟲驅除法の一つ。田舎の小學校低學年は苗代の頃になると毎日先生に連れられてこの蛾を取りに行く。百匹取ると一錢切手の貼られた貯金通帳を學校からいたゞく。次の百匹取る毎に通帳に一錢切手が殖えてゆく。蛾の卵の生みつけてある葉は、五十取れば一錢切手が貼られるのである。田舎の子供は、こうして、幼にして勤勞作業の一部へ參劃するのである。又こんな記憶も蘇つて来る。兩上りの道の泥を裸足でこねてどろ／＼にする。道端の雑草を抜いて来てこのどろ／＼の泥に差し、田植だなどと言つて遊んだ幼時の事。こゝにいふやうにして田植を始終見て育つた田舎の子供なら、田植遊びといふのはきつとするであらう。けれど都會のやうに、米のなる木さへも知らない人の多い中で育つた子供には、この田植といふことをさせやうとしても無理なこと。そこで、田植の頃に都會の子供を郊外へ連れ出して實際の田植を一度見せ度いものである。尙ほ繪などによつてこの觀察を強め補ふ。更に強ひ氣味ではあらうけれど、幼稚園で誘導して、田植をやつて見る。

計畫 砂箱、或は砂場の砂を平らにならしておく。こゝへ園庭の雑草を抜いて来て、苗を植ゑるやうに二三本つゝまどめ少々

間隔をおいて挿す。或る廣さを雑草の苗で埋める。如何にも田植らしい感じが出るものである。

期待效果 微かながらも産業勤勞への心づかひが期待出来るであらう。二には觀察。實際のを見れば一層明瞭。お話と繪などによつて語られればそうはつきりした印象も得られないであらうが、おぼろげな觀念が得られるであらう。

繼續時間 出来れば一週間位はこのまゝ保存して置き度い。共同の砂場ではそうもいかないであらうけれど。

### 外へ外へ

——廣い自由な遊び場と、新鮮な空氣と、充分な日光とを、子供の身體の立場のみから讚美するのは未だ足りない。吾人は寧ろ子供の精神の眞の發達の爲に、第一缺くべからざるものととして此の三つを要求する。わけても快活にして、清潔にして、溫雅なる子供の性情の發達の爲に、何よりも無くてならぬものは此の三寶である——

——幼稚園雜草より——